

農業会議通信



経営を語る会現地視察



平成20年度事業計画を検討
農業経営者セミナーで議論活発
女性農業委員の視点を拡大
最後の経営構造評価委員会で幕を閉じる
農地法4・5条諮問方法一部改正
経営を語る会を盛大に開催

今月の一言

みんなで生産調整を！

国の新農政が始まり1年を経過しますが、本県の農業者にも様々な対策が効果的に活用されました。一方、年度中に一部見直し議論が出て地域の農業や現地の農業者により適合するように改善されました。平成20年度は更に、多くの農業者が積極的に導入して企業の経営体に成長して欲しいと思います。そうした中、米政策改革の生産調整対策が最大の課題になると考えています。昨年の米価急落は本県の稲作経営者に大きな衝撃を与えました。国の備蓄米等の拡大である程度の米価を確保することが出来ましたが、しかし、今年からは同じ戦略は仕組めないことから国の支援策も経営者が需給バランスを保つために米の生産調整に進んで参画する必要があります。一部の集荷業者等が流通の低コスト化等で高値の集荷をしています。水続きはしないと考えられます。水田は大切な地域資源ですので、生産をする稲作経営者と集荷をする農協・集荷会社等がよく話し合い、国の政策支援を活用しながら正しい生産調整をすることが大切です。併せて、消費者価格にも強く反映する集荷から精米加工・流通等のコスト削減も極めて重要です。

岩手県農業会議
会長 中野昌造

平成20年度事業計画を検討

～農業委員会会長会議、事務局長会議～

去る2月18～19日に盛岡市で農業委員会会長会議を開催しました。開会にあたり中野会長は「国の新農政もより地域農業と現場農業者に適合するように改善された。進んで活用して成果に結びつけるよう指導に努めてほしい」と激励しました。また、全国農業会議所の松本専務にもご出席を願い、最近の中央情勢をご報告いただきました。岩手県農業会議の平成20年度事業計



画と収支予算(案)が佐々木事務局長から説明され満場一致で了解されました。全国的に新たに取り組み農業委員活動の数値目標と評価については、本県は3年前から実施をしており動揺もなく理解されました。また、遊休農地・利用集積対策に欠かせない農地所有者の責務を徹底する活動や農業委員の日常活動の周知等も理解されました。

2月13日に盛岡市で開催した農業委員会事務局長会議では、佐々木事務局長が「事務局体制の弱体化と農業委員の削減で責務を全うするのが厳しいが、10分の10の国の助成事業が十分確保されたので、活用して欲しい」と切望しました。職員が少なく事務処理が出来ない、会計検査対応が心配等の意見があつたが、6月と9月補正に向けて検討する農業委員会がありました。補助職員の雇用や農業委員への手当、旅費等の経費に活用できるので、全農業委員会で導入して欲しいものです。

農業経営者セミナーで議論活発

～燃料・資材・飼料高騰と新米作への対応～

去る2月19～20日の2日間、岩手県



農業会議(岩手県担い手育成総合支援協議会)は、農業経営者セミナーを盛岡市で約100名の農業経営者等の参加を得て盛大に開催しました。穀類や原油の国際化価格が急騰したことで県内の農業者を窮地に追い込んでいる家畜の飼料、施設園芸の燃料・資材の著しい高騰に対処した技術対応や政策支援等について研鑽を深めるため当セミナーを企画したものです。開会にあたり農業会議の佐々木事務局長は「想定外の値上がりで畜産・野菜園芸の経営者は苦慮している。また、米価の低落で稲作経営者も戸惑いが隠せない状況

である。しかし、飼育方法や栽培法の創意工夫、更には、様々な政策支援を的確に活用して乗り切ることが必要」と研鑽と情報把握の重要性を強調していました。国の政策支援の情報提供後、畜産、園芸、米の分団討議で意見交換を行いました。畜産は県農林水産部畜産課の小玉担当課長がコーディネーター、話題提供は久慈市の田村さんが行い450頭の酪農と黒毛80頭の繁殖と60頭の肥育牧場であり、パン屑、豆腐粕、ビール粕等を関東以北から収集して活用していること、繁殖はソーラー電牧等の工夫効果を発表しました。野菜園芸は農林水産部農産園芸課の千田担当課長がコーディネーター、話題提供は紫波町の水耕トマトの年間栽培をしている橋本さんが行い、二重被覆の効果や作型の工夫等が報告されました。稲作は、農林水産部の農産園芸課工藤担当課長がコーディネーター、話題提供は大規模稲作経営の盛岡市の高橋さんが行い、生産調整の必要性と販売方法の工夫が重要、また、直播栽培の実用化で飼料用稲の導入も可能とした報告がありました。

二日目は、中京大学の日比野教授が「ブレイクスルー思考による発想の転換とこれからの農業経営 飛び出せ農



女性農業委員の視点を拡大
 ～女性農業委員ボラーノの会総会・研修会～

去る2月4～5日の2日間、岩手県女性農業委員ボラーノの会（会長 中村

業」と題して、これまでにない新しい発想が農業経営に不可欠とした具体的な例を示しながらの講演に、納得をした参加者でした。今後の政策支援がやる気のある経営者に集中するとされており、この講演受講者の経営成果を大いに期待します。

美智子）は盛岡市で総会と研修会を約40名の会員出席で行いました。開会にあたり中村会長は「今年は農業委員の改選期であり、各委員会が二人以上の女性委員を確保できるように76名の会員が力を合わせよう」と決意表明をしました。農業会議の佐々木事務局長から「農業従事者として60パーセント以上が女性といわれるが、経営者として、起業者としても拡大している。家族経営協定を締結して共同申請で認定農業者になり新農政の政策支援を活用して欲しい。また、その視点を農業委員会活動に反映するように」と激励しました。総会は、平成19年度事業実績と収支決算。平成20年度事業計画と収支予算案を満場一致で決議しました。特に、農業委員の改選にあたり女性委員ゼロの3委員会、1名の5委員会に会長、副会長と地元農業委員が首長、議会議長に要請することとしました。研修会は、福島大学の岩崎由美子先生から「農業委員活動の活性化に向けて」と題して、具体的な実例を入れた具体的な講演をいただきました。その後、分回討議で選挙戦への立候補の困難さや女性として農業委員会活動の課題と解決方法・予算確保等を議論しました。何れ、予算の確保を図りながら農業委

最後の経営構造評価委員会
 で幕を閉じる

員として研鑽を深め、その上で女性の視点を各所に反映したいと意気を上げました。

去る1月30日に岩手県経営構造対策推進指導・評価委員会（会長 農業会議事務局局長佐々木由勝）は、盛岡市で平成12年度から実施してきた最後の委員会を開催しました。これまで、国の委託を受けて11市町村20地区の事業導入について、指導助言を続けてきましたが、国の事業が大幅に変更になりましたが、新規地区の発掘が困難となったことにより、委託事業が中止となりましたので、最後の委員会になったものです。最後の評価対象になった九戸村のレストランと加工施設、農地情報システム、花巻市のカントリーエレベーターとワイン製造施設、奥州市のカントリーエレベーターと暗渠排水ですが何れも、指導が徹底しており目標数値の達成が可能と高く評価されました。これまで指導・評価しました20地区の施設は、今後、新しい農政下において集落営農経営体の推進母体として、また、認定農業者の大規模経営者等の経営力

農地法4・5条諮問方法一部改正
 ～1月常任会議員会議～

向上に大いに役立つものと期待されま

す。委員各位に敬意と感謝を申し上げます。

去る1月16日に盛岡市で開催した第328回常任会議員会議において、「農地転用許可に係る農業会議への諮問方法の見直しについて」を協議した結果、提案どおり承認されました。内容は、農地法4条と5条については知



事諮問であつたが平成19年度から希望市町村への権限委任となり一部、市町村長諮問になりますので、常任会議員会議への諮問説明に出席するか否かについて、検討したものです。知事諮問分については、従来どおり出席説明となりますが、市町村長諮問については、原則として出席説明とするが、市町村と農業会議が諮問書提出の際、出席の要否を確認して、要しないとされた案件に該当する場合は出席をしないで、農業会議が総括表を説明して諮問を行うこととなります。なお、市町村の職員が欠席の場合、当該案件に対する質問に対する対応が出来ない場合は、農業会議の意見を保留して翌月の常任会議員会議における諮問への対応を踏まえて意見を述べるものとされました。詳しくは、県庁農業振興課又は農業会議に問い合わせの上、間違いのないよう対処してください。

経営を語る会を盛大に開催 ～岩手県農業法人協会～

去る2月26～27日の2日間にわたり、岩手県農業法人協会（事務局 農業会議）は、3年目となる「経営を語



る会」を花巻市で開催しました。開会にあたり石川会長は「新農政の経営目標は法人経営者になることであり、我々先輩経営者は、お手本として見られている。より研鑽を踏んで成長する必要がある」と激励しました。農業会議佐々木事務局長は、「食糧事情の様々な変化は、農業法人経営にとっては追い風である。しっかりと経営能力を身に付けて力を合わせて、企業の経営を確立する必要がある」と新農政政策の効果的な活用を紹介しました。初日は会

員の農業経営を紹介してもらい意見交換をして研鑽を深めました。農業会議の佐々木事務局長が進行役となり、花巻市の有限会社岩手園芸代表取締役の佐藤巧氏から鉢物を中心とした花卉経営の実態を報告頂いて意見交換をしました。暖房費の高騰対策として品目、作型の工夫に議論が集中しました。次に、花巻市の有限会社盛川農場代表取締役の盛川周祐氏から米の直播栽培、転作作物への馬鈴薯の導入など水田農業経営の創意工夫が報告されました。乾田直播の実用化や馬鈴薯の流通方法等の話題で盛り上がりました。講演は、日本農業法人協会の高須敦俊氏からGAP導入研修を行いました。生産現場の安全性が国際的に重要課題となっており農業管理や資材管理、農機具管理等、幅広い生産環境内のチェック体制や適切な管理システムの構築が急務であることを認識しました。翌日の現地研修においても岩手園芸の視察研修後、に実習として指導を受けました。また、金融機関、リース業界との意見交換会も2年目を迎えており、年々、拡大して効果的な名刺交換の場として定着してきました。

2日目は、岩手園芸の花弁ハウスを現地視察研修しました。燃料、流通経



費の急騰対応を実感しました。最後に岩手県立農業研究センターの所長、副所長、各部室長、研究者と始めて現場実態の課題を提案しながら議論を深めました。飼料、燃料の急騰に対応した技術開発等に議論が集中しました。両者から最近、プロ農家と研究者の直接議論が少ないので、今後、継続開催をする申し合わせをして有意義な意見交換会を閉じました。

トピックス

TOPICS

農業法人協会が県の研究者と議論

去る2月27日北上市の岩手県農業研究センターにおいて、法人経営体の代表者等と研究センターの研究者と今日的な課題の実用化研究と末端経営者への伝達方法等、熱心な議論が展開され、両者から継続開催が強く要請されました。

東北の女性農業委員登用拡大

去る2月21日に仙台市の東北農政局で東北地方の女性農業委員組織の代表者会議が開催されました。農業委員会に女性の視点を反映するために各委員会複数以上の女性を登用するよう申し合わせました。既に、76名確保して平均では、複数以上を達成している本県の取り組み実績が特記されました。

「どぶろく」全国研究会二戸で

去る1月26日に二戸市で全国の「どぶろく」を一堂に会した研究会が開催されました。日本の農村文化の象徴である「どぶろく」ですが、各地方の特徴が出て素晴らしいものが多く出展されました。ホテル、民宿等の商材として活か

農地所有非農家の意識改革

農家後継者の不在から分割相続

されているものが研究も進んでいるように感じました。農家民宿の踏ん張りを期待します。



等で農地持ちの非農家が急増して遊休化していることから農地の法的責務や農業委員の役割等を所有者に徹底して意識改革を願う必要が急務ですので、チラシ等の配布を企画しています。

農政局長が新農政縦割り改善を示唆

品目横断的経営安定対策、米政策改革、農地・水・環境保全向上対策の新農政3対策が、国の縦割り行政で現地では一体的な取り組みが出来ないとされています。これに対して新農政局長は局長2名を北3県と南3県のリーダーとして定め、縦割り行政を是正するとしています。末端効果を期待しています。

新図書 紹介コーナー

ダイジェスト版 農政改革 三対策

本図書刊行の関連リーフを
一冊にまとめた一冊



コード番号 19-40

A4判・44頁

定価 500円(税込み・送料実費)

本図書から刊行している農政改革三対策、
①水田・畑作経営所得安定対策
(「水田・畑作経営所得安定対策のあらまし」)
②米政策改革推進対策
(「米政策改革の着実な推進に向けて」)
③農地・水・環境保全向上対策
(「早さわか!農地・水・環境保全向上対策」)
のリーフレットを一冊にまとめたハンドブック。

必見、「ダイジェスト版 農政改革三対策」。国の新しい農政が大きく変わります。企業的農業経営者目指している認定農業者や集落営農組織の加入者、農業経営関係者は必ず、ご一読をお奨めします。

ご相談、お申し込みは岩手県農業会議へご一報を頂きますようお願いいたします。

岩手県農業会議
電話(019)626-8545

【発行】

全国農業会議所
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-25-5
虎ノ門34MTビル5階
TEL 03-5251-3907
http://www.nac.or.jp.tosho/

